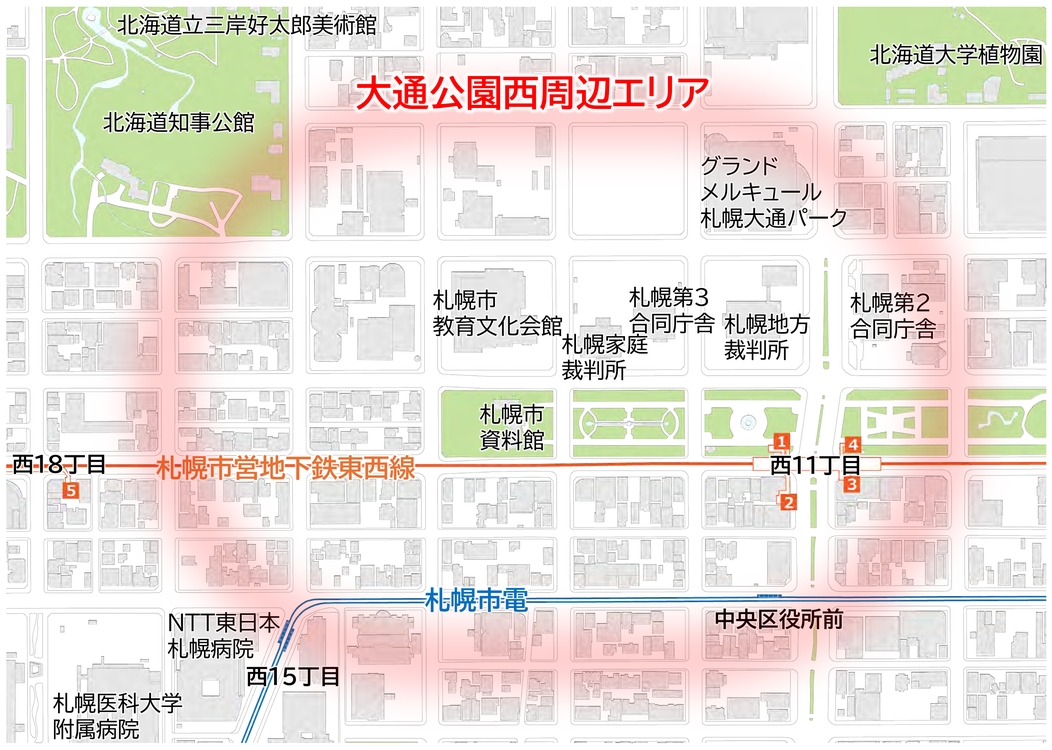
大通公園西周辺エリアの紹介

大通公園西周辺エリア
地域の特徴を生かしたまちづくりの検討

札幌市では、右図の「大通公園西周辺エリア」において、都心西側の**「まち歩きの拠点」**や、**「みどりや歴史・文化を活かした交流の拠点」**としていくための「まちづくりの考え方」をまとめたいと考えています。



第3次都心まちづくり計画（令和7年度末策定予定）

都心西側の回遊拠点を形成し、**美しいみどりや歴史・文化芸術を生かした多様な交流**をはぐくむ拠点

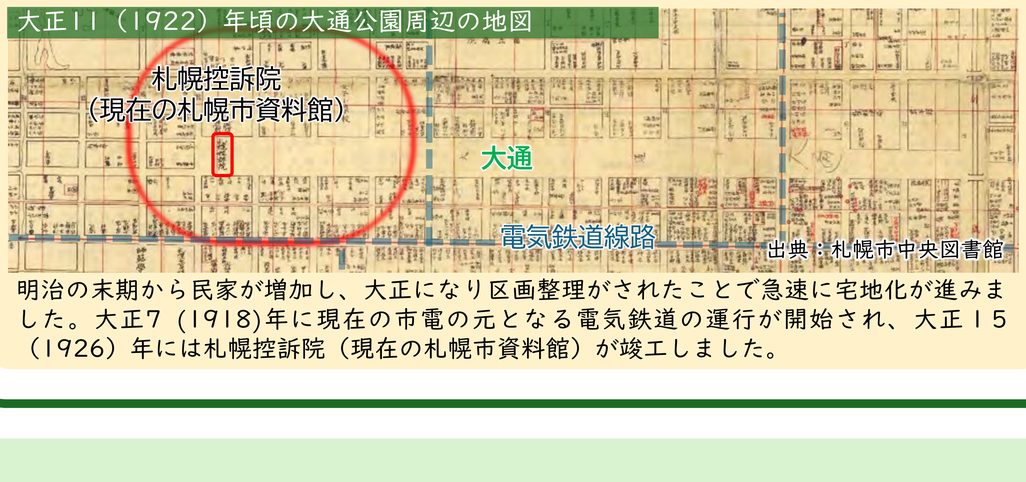
大通及びその周辺のまちづくり方針
―札幌都心はぐくみの軸化方針―（令和5年策定）

◆大通公園西周辺エリアのこれまでの変遷

大通公園西周辺エリアは、明治初期に火防線として整備された大通を境に北側は官公庁街、南側は市街地として整備されました。当時現在の札幌市資料館周辺から西側は未開拓でしたが、その後桑畑となり、大正あたりから市街化されていきました。また、大正7年に現在の札幌市電のもとになる電気鉄道が運行され、人の往来でにぎわうようになっていきました。

●明治～大正の大通公園周辺の変遷

明治6（1873）年頃の大通公園周辺の地図



明治４年頃、北の官地、南の民地、それを隔てる火防線が整備され、後の大通公園の基礎となりました。まだ現在の西エリア周辺は整備されていません。

明治40（1907）年頃の大通公園周辺の地図

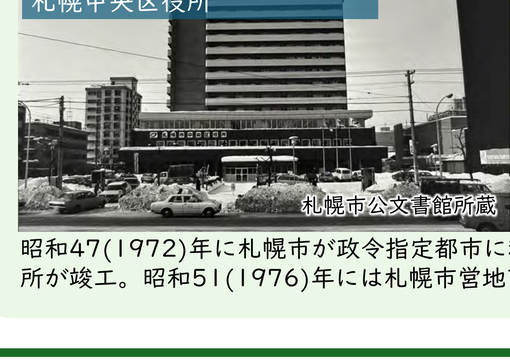
明治40年頃、現在の札幌市資料館周辺は大日本帝国陸軍の施設があり、その東側には桑畑が広がっていました。桑畑は現在の桑園の名前の由来になっています。

大正11（1922）年頃の大通公園周辺の地図

明治の末期から民家が増加し、大正になり区画整理がされたことで急速に宅地化が進みました。大正７（1918)年に現在の市電の元となる電気鉄道の運行が開始され、大正１５（1926）年には札幌控訴院（現在の札幌市資料館）が竣工しました。

●昭和の大通公園西周辺エリアの様子

昭和24(1949)年頃の増築棟



昭和20年代の札幌医科大学付属病院

昭和６年、NTT東日本札幌病院の前身である札幌逓信診療所が南１条西15丁目に移転。
昭和25年には札幌医科大学が新制医科大学の第１号として開学しました。

昭和38(1963)年頃の札幌地方裁判所

昭和52(1977)年に竣工した札幌市教育文化会館

昭和38(1963)年に札幌法務合同庁舎（現在の札幌地方裁判所）が竣工。
昭和52(1977)年に札幌市民会館のみで対応しきれない芸術・文化活動や研修等に対応した施設として、旧札幌地方裁判所跡地に教育文化会館が開館しました。

昭和47(1972)年に竣工した札幌中央区役所

昭和51(1976)年に開業した東西線

昭和47(1972)年に札幌市が政令指定都市に移行し、行政区政が施行され、札幌市中央区役所が竣工。昭和51(1976)年には札幌市営地下鉄東西線（琴似～白石）が開業しました。